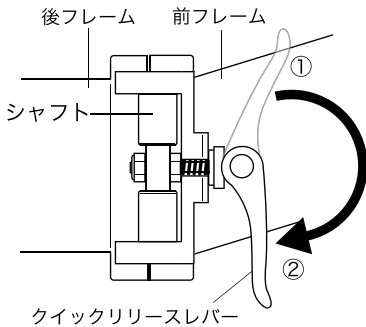


# ドッペルガンガー折り畳み自転車 共通組立説明書

※本説明書のイラストは代表的なモデルの形状を示しています。そのため、お手元の自転車とは細部が異なる場合があります。

**1** まずは自転車を箱から取り出し、下記の一覧に従い、付属品を確認してください。万一不足があった場合には、「取扱説明書」記載の弊社連絡先までご連絡ください。

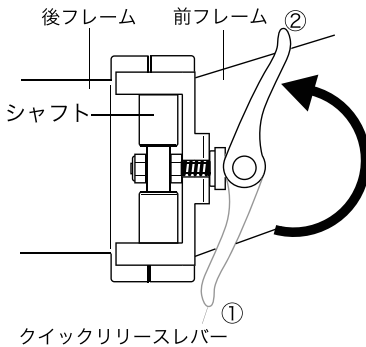
- ・10xシリーズ/2xxシリーズ/30xシリーズ/・・・自転車本体、サドル・シートポスト、ナットキャップ4個、タイダウンベルト、取扱説明書、組立説明書（本書）
- ・FXシリーズ/30xシリーズ・・・ワイヤーロック、LEDライト
- ・70xシリーズ・・・自転車本体、サドル・シートポスト、ナットキャップ4個、取扱説明書、組立説明書（本書）、ワイヤーロック、LEDライト
- ・60xシリーズ・・・自転車本体、サドル・シートポスト、ナットキャップ4個、カゴ、取扱説明書、組立説明書（本書）、ワイヤーロック、LEDライト



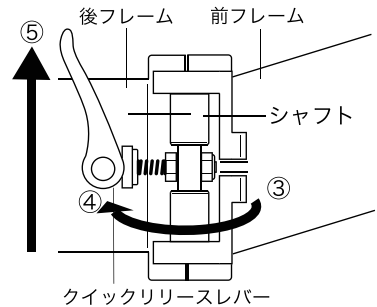
**2** 前フレームと後フレームを開き、ロックします。フレームを（乗車する状態となるよう）開き、前フレームと後フレームが正しく結合されると、シャフトが自動的に下がり前フレームと後フレームとを結合します。フレームをロックしたらスタンドを立て、自転車が倒れないように安定させてください。

フレームが結合していることを確認した後、クイックリリースレバーを①の方向から②の方向へ完全に倒して閉じ、ロックします。クイックリリースレバーは必ず閉じたときに下を向くように角度を調整してください。クイックリリースレバーが緩く感じられる、また固くて完全に倒すことができない場合は、本説明書「4」を参照しレバーの締め付け具合を調整してください。

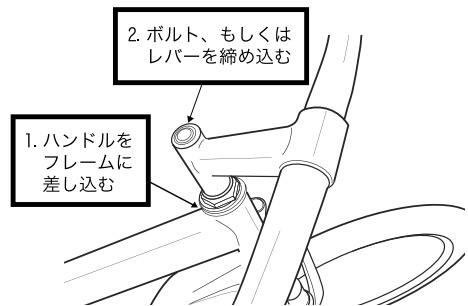
※前フレームと後フレームを結合する際、クイックリリースレバー軽く持ち上げるとスムーズにロックできます。



フレームを折り畳む際は、上記と逆の動作を行います。左の図のようにクイックリリースレバーを①の方向から②の方向へ押し上げた後、右の図のように③の方向から④の方向へレバーを水平に回転させ、レバーとシャフトを上方向（⑤）へ持ち上げると、前フレームと後フレームとの結合が外れ、フレームを折り畳むことができます。

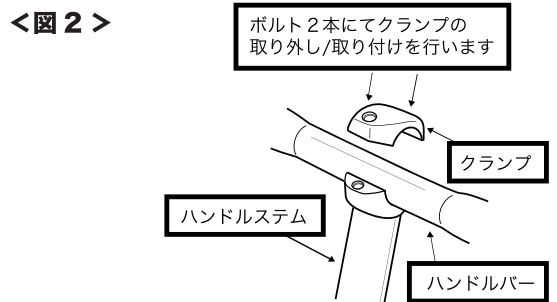
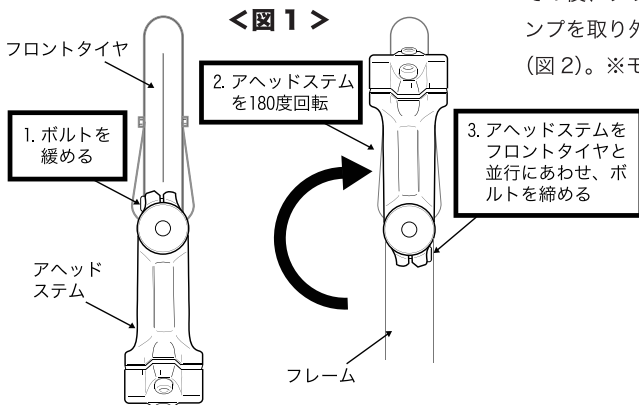


**3**-1 ハンドルを組み立てます。「204」「301」「60xシリーズ」「70xシリーズ」についてはハンドルをフレームへ差し込み、固定してください。ハンドルの高さを調整する際は、シートポストと同じく、それぞれハンドルポストに刻まれた「限界線」を超えないようにします。「FDM26」「204」については六角レンチを使用してハンドルポスト上部のボルトを時計回りに回して固定し、「60xシリーズ」についてはハンドルポストに内蔵されたレバーを時計回りに回転させて固定します。ハンドルを取り外すときは、逆の動作を行います。

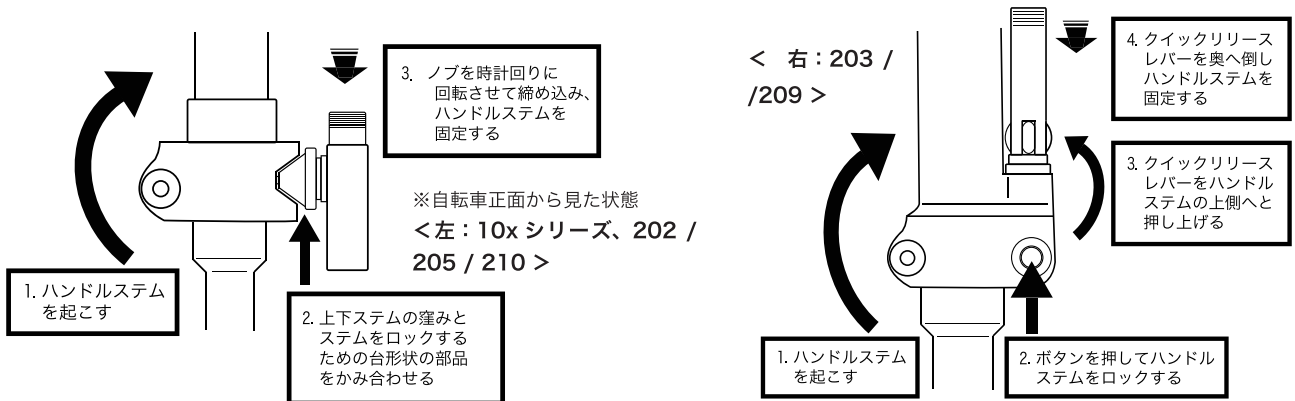


**3**-2 「FXシリーズ」「203」「209」については、ハンドルバーをハンドルステムへ取り付けする必要があります。「FXシリーズ」については、まず六角レンチを使用してアヘッドシステムを固定しているボルトを反時計回りに回して緩め、アヘッドシステムを180度回転させた後、ボルトを時計回りに回して固定します。アヘッドシステムは、タイヤのラインと必ず並行になるように固定してください（図1）。

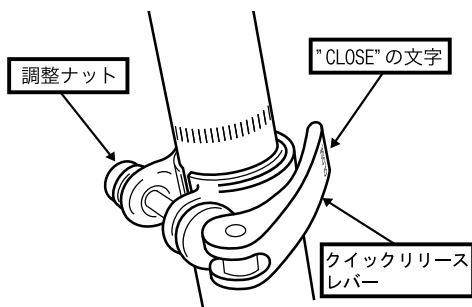
その後、クランプを固定するボルトを緩め、ハンドルステム上部または前部のクランプを取り外した後にハンドルバーを挟み、クランプをもとの状態へと固定します（図2）。※モデルにより、イラストとは若干、形状や仕様が異なります。



3-3 「10x シリーズ」「2xx シリーズ」はハンドルの収納方法について、折り畳み式を採用しています。各モデルとも、下図の要領でハンドルステムを起こし、乗車できる状態に組み立てます。クイックリリース採用モデルについて、レバーが緩く感じられる、また固くて完全に倒すことができない場合は、本説明書「4」を参照しレバーを調整してください。ハンドルステムの固定が確実に行われていないと非常に危険ですので、組み立ては確実に行ってください。また、折り畳む際には逆の動作を行います。



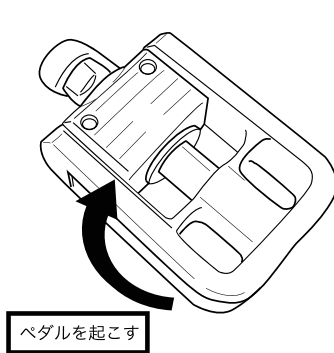
4 シートポストをフレームに差し込みます。このとき、シートポストのみをフレームに差し込むとフレーム内へシートポストが脱落し、取出しが困難になる場合があります。必ず、シートポストにサドルが取り付けられた状態で作業を行ってください。また、サドルの高さを調整する際、必ずシートポストに刻まれた限界線がフレームに隠れるように調整を行ってください。調整後はクイックリリースレバーが確実に倒され「CLOSE」の文字が外側にあること（文字が無いものはレバーにガタが無く部品同士が固定されているか）、またしっかり取り付けられて脱落やずれの危険が無いことを確認した上でご乗車ください。



#### <クイックリリースレバーの調整について>

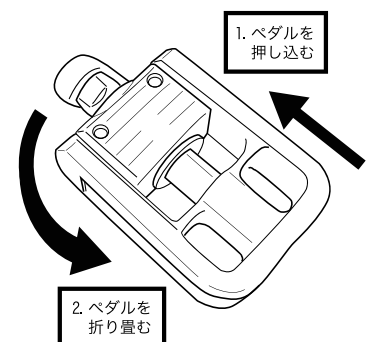
クイックリリースレバーの締め付けが固く、完全にレバーを倒すことができない場合は、(1) まずレバーを起こし（緩め）、そのレバーを片側の手で保持したまま、(2) もう片方の手で調整ナットを（調整ナットに向かって）反時計回りに回して締め付けを緩めます。逆にレバーを「CLOSE」の文字が見えるまで完全に倒しても各部の締め付けが緩く、すぐに固定がずれるような場合には、調整ナットを時計回りに回して締め付けをきつくします。

※クイックリリースを極度に締めすぎるとシートクランプやフレームが変形し、シートの上下調節ができなくなる場合がございますのでご注意ください。



5 ペダル先端を持ち、左の図のようにペダル面が地面と並行になるように起こします。ペダルの折畳み機構内部にはバネが内蔵されており、勢いよく起き上がりますので、指などを挟まないようご注意ください。ペダルを折り畳む際は、右画像のように、まずペダルを車体中央側へ奥まで押しこみ、その後下方へ折り曲げます。

※10 x シリーズにおいては、ペダルの仕様が若干異なります。乗車の際はペダル先端を持ってペダル上面が地面と並行になるように起こし、ペダル裏面のツマミを回転させ、使用中にペダルが折り畳まれないように固定してください。



注意：折り畳みペダルの端に荷重をかけて走行しないでください。折り畳みペダルは構造上、ペダルの端に過度な荷重をかけると破損に繋がる可能性があります。ご使用の際は、ペダル面均等に、そしてなるべく取り付け軸付近に荷重をかけるようにして走行してください。また、その際は衣類（ズボンやスカートの裾など）が回転部に巻き込まれないようご注意ください。スポンパド等のご使用をお勧めします。

6 前輪・後輪の車軸と前後フォークとを固定しているナットに、ナットキャップを被せるようにして取り付けます。これで自転車は完成ですが、もう一度各部に緩みやがたつきが無いか、部品はしっかりと取り付けられているかを確認した後、安全な乗車をお楽しみください。各部の点検・調整方法は別に添付する「取扱説明書」を参照してください。

※当説明書内容の無断転用を禁止します。

Copyright © 2009 BE-S CO.,LTD. All rights reserved.

200811FD